IV－48　フェリー利用客の回遊動向に関する調査研究

秋田工業高等専門学校　学生員　○三浦　沙紀子
国土交通省　秋田港湾工事事務所　　奈良　肇
秋田工業高等専門学校　フェロー　　折田　仁典

1．はじめに

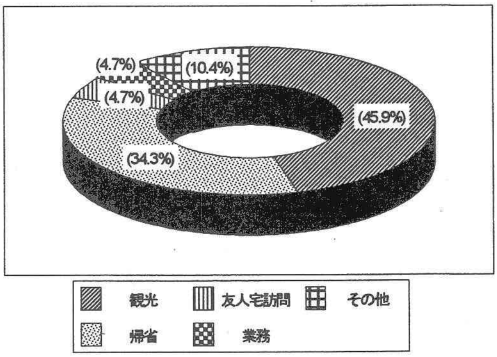
港湾は物資の輸送のみならず人的交流をも分担し、さらには地元住民の憩いの場としての機能を保持する多機能な施設である。したがって、港湾がこれらの機能を充分に発揮することは地域にとっては多大な効果をもたらすことになる。本研究は平成11年7月に開設されたフェリー航路（苫小牧－秋田－新潟－敦賀）に着目し、フェリー利用者の回遊動向を明らかにするとともに、秋田港の利用実態や情報発信機能の現状などを把握することによってその結果から今後の港整備について検討を加えた。

2．調査の概要

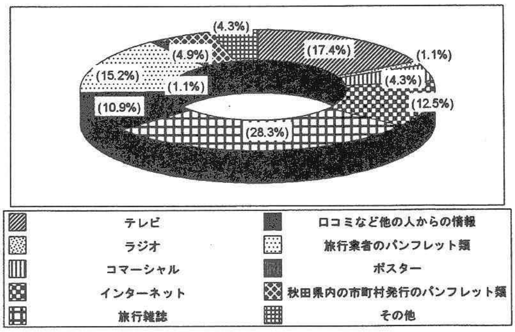
調査は夏期（8月）と秋期（10月～12月）の２回、新日本海フェリー(株)の協力のもと、秋田港発着のフェリー利用者を被験者として実施した。表－１は調査結果を示したものである。

表－１　調査結果

		配布数	回収数	回収率
夏期	秋田港　着	402	123	30.60%
	秋田港　発	166	98	59.04%
	全体	568	221	38.91%
秋期	秋田港　着	308	38	12.34%
	秋田港　発	120	54	45.00%
	全体	428	92	21.50%



図－１　フェリー利用者の旅行目的（全データ）



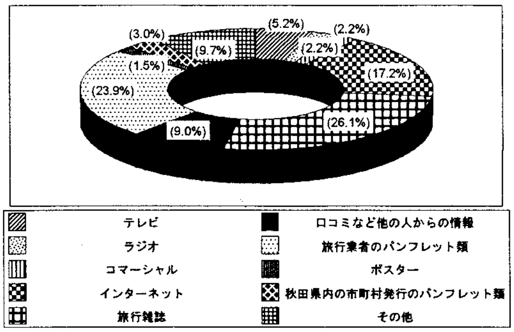
図－２　秋田県に関する情報入手方法（着データ）

2．旅行目的と情報入手方法

図－１はフェリー利用者の旅行目的を示したものである。図によれば、調査をお盆や紅葉シーズンに行ったこともあるせいか、観光目的が一番多く、次いで帰省目的が多くなっている。

図－２はフェリー利用者の秋田県に関する情報入手方法を示したものである。これをみると、「旅行雑誌」から秋田県に関する情報を得た利用者が最も多く、次いで「テレビ」の順である。一方、「ラジオ」や「ポスター」から秋田県に関する情報を入手した利用者は極めて少ない。

図－３はフェリー利用者の観光ルートを決定するための情報入手方法を表したものである。これをみると、秋田県に関する情報入手方法と同様に最も多かったのは「旅行雑誌」から得る情報であった。次いで旅行業者のパンフレット類、インターネットがあげられた。昨今、多様な旅行情報を提供する雑誌類が数多く出版されているようであるが、旅行者がこれを参考にしていることが判明するとともに、その重要性が示された。



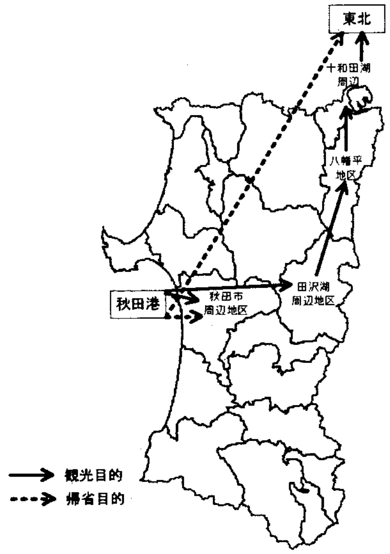
図－３　観光ルートに関する情報入手方法
（着データ）

４．フェリー利用者の回遊動向

図－４はフェリー利用者の旅行目的と秋田港に到着してからの回遊動向とあわせて図示したものである。分析では多くの回遊動向パターンが把握されたが、ここでは数の多いトリップのみを表示した。図によれば、「観光」は秋田市周辺へのトリップ及び田沢湖、角館を経由して、十和田湖周辺を回遊し、そして青森をはじめとする東北地方へ向かうトリップが顕著であった。一方、「帰省」は「観光」同様秋田市周辺そして直接県内を通過して東北地方へ抜けているものが多くみられた。

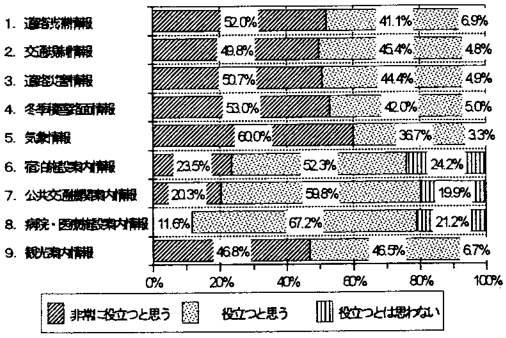
５．提供情報の評価

図－５はフェリー利用乗降ターミナルで提供すると仮定した場合（現在は情報の提供が行われていない）の各種情報の役立つ度合いについて分析したものである。分析結果によれば「役立つと思う」が最も高いのは「気象情報」の60.0%であり、次いで「冬季積雪路面情報」の50.3%、「道路渋滞情報」の52.0%などの順となっている。概して、自動車を自分で運転して走行する上で必要とする情報の「役立つと思う」度合いが高くなっている。これは、フェリー利用客の大多数がフェリーを降りた後、自ら車を運転して旅行することを目的としていることからも理解できる結果である。なお、「宿泊施設案内情報」は全体の23.5%が「非常に役立つ」と答えているが、同時に24.2%の利用者が「役立つとは思わない」と答えている。これは、被験者に帰省目的の利用者が多いためである。



（注）多くのトリップが県内を回遊しているが、顕著なトリップのみを示した。

図－４　フェリー利用者の回遊動向
（全データ）



図－５　提供情報の評価
（全データ）

６．まとめ

本研究ではフェリー利用者の回遊動向ならびに提供情報の寄与度について分析を加えた。回遊動向では秋田県内の回遊のための拠点としてのみならず、他県への経由地としてのターミナル機能もあることが把握され、秋田港の重要性が明らかとなった。今後は、さらに情報提供サービスをどのように具体化するかが課題となってくる。